

# Web 情報共有サービスを授業で利用して

家政科・准教授 延原 理恵

## 1. はじめに

オンラインストレージサービスを利用している人は多いと思う。学外の研究者と大容量のファイルを受け渡す際、これまではファイル転送サービスを利用することが多かったが、最近はオンラインストレージサービスで送られてくるケースが増えてきた。これは、大学の情報環境としてオンラインストレージサービスが利用できるようになってきているからだと思う。かくいう私も今では、大容量のファイルを送りたいとき、本学に導入された Web 情報共有サービス (Proself) を利用している。

## 2. 授業での Web 情報共有サービスの利用

本学では2年前の情報処理センターのシステム更新に伴って、インターネット経由でファイルの保存や公開、共有ができるシステムが導入された。このサービスは利用者を限定したファイルの共有が可能であるので、授業関係者でファイルを共有するのに便利であり、特定の授業で利用している。またアカウントを持たない外部者からファイルを受け取ることができる機能があり、授業レポート提出にも利用できる。ここでは授業での Web 情報共有サービスの利用事例を報告させていただく。

### 2. 1 公立学校等訪問研究

1 回生の必修科目として設定されており、実地教育科目の最初のステップを良い形でスタートしてほしいと願い、多くの教職員がこの科目に携わっている。専攻別の授業でも学科の複数の教員が担当しているが、1 名は公立学校等訪問研究専門委員会の学科選出委員として、大学での授業方針や運営について協議する場へ赴き、そこでの結果を踏まえて学科の担当教員へ伝達する事項も多い。したがって、情報共有は欠かせないものとなっている。そこで、Web 情報共有サービスに授業担当者で共有できる授業フォルダを作成し、利用している。

家政科では教科専門の5名の教員が訪問先5校園を1校園ずつ担当している。この授業は、訪問だけでなく、事前・事後指導やオリエンテーション、振り返りやまとめの時間を組み合わせて行われている。訪問の前の週に事前指導、訪問の次の週に事後指導の時間を確保したいところであるが、訪問先の事情等を考慮すると理想どおりの日程を組むことは難しく、イレギュラーな日程になることもある。したがって、担当教員は担当先だけでなく、全体の動きや状況を確認するため情報共有を行っている。このとき必要な関連資料を共有フォルダにアップロードしておけば、情報共有しやすいだろう。

学生は訪問後一週間以内に「訪問の記録」を2部提出することになっているが、家庭領域専攻ではこの他に保存用に電子ファイルの提出をメール添付で求めていた。担当教員は訪問後に、メールから学生の添付ファイルを抽出し、それを1枚のCD-Rにコピーするという作業を行っていた。これをメールではなく、Web 情報共有サービスを利用しての提出に変更した。訪問先ごとのフォルダを設定しておけば、抽出してコピーする作業を省くことができ、提出状況を授業関係者全員がすぐに確認できる。また、個人のメールではないため、CD-R等の記録媒体に焼き直す必

要も省くことができた。ただし、紙媒体の省力化には成功していない。こちらの方はこれまでどおり、訪問先への提出用に1部、教員が確認（添削）するのに1部の計2部の紙媒体での提出を求めている。

## 2. 2 生活情報処理

この授業は高等学校教諭免許状(家庭)取得の必修科目であり、情報処理センターの端末室で、インターネットを利用したの情報収集、文書作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、グラフィックソフト等を利用して行っている。したがって、この授業の課題はこれらのソフトのファイルで提出される。以前は、IPC パソコン特別領域申請書を提出して承認を受ければ、IPC パソコン利用の際に授業の受講生が共通に使えるフォルダを IPC 技術職員の方によって設定していただくことができたので、これを利用していた。共通フォルダに課題提出を求めることもできたし、授業の資料や教材を保存しておいて、そこからダウンロードすることができるようにもしていた。ただ、利用に際しては、受講生全員が IPC のファイルサーバからネットワークドライブの割当の特定領域ドライブに接続し、共通フォルダを設定するという作業が必要だったのだが、ときどき共通フォルダにつながらないという受講生が出現し、そのトラブル対応に追われ、授業の進行が遅れることもあった。

これも Web 情報共有サービスが利用できるようになってからは、こちらに切り替えて利用している。授業用フォルダの作成にあたっては、Web からファイル共有作成申請ページ (<http://ipc.kyokyo-u.ac.jp/usershare/>) にアクセスしログインして申請すれば、これまでのように、紙媒体でパソコン特別領域申請書と受講者 ID 一覧表を提出しなくてもよい。また、担当教員が授業フォルダへの参加ユーザーの設定を行うことができるため、以前のように履修確認が完了し受講生名簿が確定するまで待つ必要もなく、受講生の履修動向に合わせて追加削除ができるため、開講当初から利用できる。さらに、IPC の端末室以外からも利用できるため、受講生は課題を持ち帰って自宅から提出することが可能であり、授業担当者も同様に Web が利用できればいつでもどこからでも提出状況を確認できるようになった。

## 3. おわりに

Web 情報共有サービスを授業で利用するようになってからの紙媒体の削減は今のところ、IPC へのパソコン特別領域申請書とそれとあわせて提出する受講者 ID 一覧表の2枚であった。ペーパーレス化にはほとんど貢献できていないのであるが、これからも ICT サービスは進化していくだろうから、書類提出が削減されることを期待したい。昨年、韓国の小学校で教員をされている教員研修留学生から話を聴く機会があり、日本の学校は紙書類の提出が多いが、韓国はネットから済むことがほとんどで紙書類はあまり使わないのだとうかがった。このさき日本の書類文化はどのように変化していくのだろうか。